

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1792200147		
法人名	株式会社サンウェルズ		
事業所名	太陽のプリズム徳光		
所在地	石川県白山市徳光町2665番地17		
自己評価作成日	2017年10月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaignokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人シナジースマイル		
所在地	石川県金沢市千木町1129番地		
訪問調査日	平成29年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの畑や花壇には、色とりどりの花や季節ごとの野菜を利用者様と大切に育てています。収穫された野菜や果物を使っての料理やおやつ作り、フラワーアレンジメント等楽しく取り組んでいます。近隣住民のボランティアや保育園行事参加など相互交流も盛んに行っております。職員は研修等に参加し、努力を重ね、安心と安全、温かく優しい居場所作りを心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海浜温泉の近くにありお風呂は温泉となっている。事業所の畑は、野菜作りをしていた利用者を中心に地域の方の協力もあり、季節ごとの野菜や花を育てている。今年も沢山の野菜の収穫があり、季節の献立を利用者と一緒に味わい楽しんだ。職員の移動もあり、新人も増えたが事業所の理念である「笑顔あふれるホームになる」を毎朝、唱和し利用者の笑顔が毎日増えるように日々のケア、利用者との関わりに取り組んでいる。利用者や職員の笑顔が増えることで、家族の安心感に繋がりが、地域の方がいつでも寄りたくなる居心地の良い場所となることを職員全員で目指している。緊急時の体制や協力医療機関や福祉施設との連携が整備され利用者や家族の安心に繋がっている。また職員はキャリアアップ制度で専門職としての勉強を重ね、質の良いケアの提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	67 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所と各ユニットフロアに理念を掲示し、スタッフがいつも確認出来るようにしている。 朝礼にて理念唱和を実施している。	朝礼で理念「笑顔あふれるホームになる」を唱和し、職員は自ら笑顔で、利用者に「喜んでいただく、楽しんでいただく」を心掛けケアに反映させている。また今年から職員一人ずつ、目標や話題等何かを話す機会を設け、士気を高められるよう発表している。職員の笑顔が利用者の笑顔を引出し、話しやすい雰囲気となることで、利用者の不安を解消していく支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の方々と一緒に花壇や畑を整備したり、地域の祭りや文化祭への参加を行なっている。 今年度は、地域の保育園とも交流を行なっており、様々な行事等参加している。	町会に加入しており、2か月に1回は会報を回している。お祭りや文化祭への誘いや作品出店のスペースも用意されている。今年は雑巾100枚縫って贈呈した。施設行事への誘いも回しており、近隣の方や家族が訪れている。また事業所の花壇や畑は利用者中心に地域の助けもあり、今年は野菜の他、メロンやスイカを作り喜ばれた。利用者にとつて、地域交流は生活の張りとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて利用者様の生活の状況を報告している。また認知症講座等も開催し、認知症への理解と一緒に学んでいる。 地域の徘徊対応訓練等にも参加させて頂き、支援方法など共に学んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、包括職員、長寿社会課職員、町会長、民生委員、公民館長、消防署等の方々に参加頂き、運営状況や取り組み、状況報告、事故や苦情、内容、対応方法の報告など行っている。様々な意見を頂き、よりよいサービス向上に努めている。	2か月に1回奇数月に行っている。参加者は家族、町会長、民生委員、公民館長、消防所職員、包括職員、長寿社会課職員の参加で行っている。運営状況や事故報告、苦情、災害など対応や対策について話し合っている。今年は台風による被害についてや防災訓練、ボランティア活動、傾聴や入浴後のドライヤーかけ、畑仕事等地域支援が利用者の喜びに繋がっていること等話し合った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加頂き、気づいた点は、ご指摘頂き、改善に努めている。 地域密着型サービス施設連絡会に参加し、事業所状況を報告し、運営や様々な事例についての相談を行なっている。	運営推進委員会や地域密着型サービス事業所連絡会などに参加してもらい、報告し意見を貰っている。また日ごろより、分からない事等常に聞くようにし、協力が得られている。最近では台風により、施設屋根が一部はがれてしまい、利用者の不安が強くなったため皆でフロアに集まり相談した状況を報告した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各フロア入口ドアの鍵は夜間のみかけ、日中はかけないようにしている。 利用者一人一人の人柄や習慣を把握理解し、行動を抑止しないケアに取り組んでいる。	管理者は否定はしないを意識するよう常に話しており、外部、内部の研修には職員が出来る限り参加するようにして、研修結果はミーティングで報告している。職員同士、自分では気づかない事も言い合えるようにし、不適切なケアを無くすようにしている。また職員のストレスチェックを産業医にお願いしている。フロア入り口の鍵は夜間のみかけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内社外研修参加を積極的に行ない、MTGにて学習の場を設けている。特に不適切ケアをなくす事に重点を置いて取り組んでいる。 朝礼やMTGで、社会的ニュースや近隣施設情報などを例に挙げ、話し合い、自分達のケアを振り返り、互いに見過ごさない環境作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内・外の研修に参加し、制度の理解に努めている。しかし、全職員が同水準の知識と理解に達していない為、今後は事業所内での研修の充実を図る必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分に時間を取らせて頂き、分かりやすい説明を心掛けている。都度、疑問点等ないか尋ね、理解・納得頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付や外部機関への相談窓口については、契約時に説明し、玄関にも掲示している。また年1回のアンケート実施、ご意見箱の設置にて意見や要望を頂いている。また利用者様、ご家族様とのコミュニケーションを多く取り、遠慮なくご意見を言えるよう努め、施設運営に取り入れさせて頂いている。	苦情の受け付けの仕組みは契約時に説明し、家族が訪れた時に話し合いの機会を設け要望を聞くようになっている。年1回アンケート調査を行い、玄関の意見箱は毎月1回開け、意見、要望が入っている。ミーティングで話し合い対応している。取組内容については運営推進委員会やお便りや皆に報告している。花の水やりについてや清掃の回数を増やしてほしい等あり、すぐ対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、個人面談を実施し、スタッフの意見をくみとる場を設けている。また事務所にアイデアBOXを設置し、新たな取り組みや提案等が代表者にも届くようにしている。あがった意見は、内容により、全体MTGや高齢者住宅MTG、部長面談等に取り上げさせて頂いている。	朝礼で司会を当番制にし、自分の考えを1分間スピーチし、人前で話す訓練をしている。人と話すことや伝達の大切さを学ぶ機会となっている。またアイデアボックスを設置し、意見から残業を無くす取組を意識した支援体制づくりや制服の胸ポケットからウエストポーチへの発案、誕生日にリフレッシュ休暇がとれるようにしたり、研修旅行等意見を出し合い全体会議に発展させ改善できている。また毎月個人面接が行われ、精神的負担などは人事担当に相談できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社全体として人事考課制度を取り入れている。自己評価、管理者評価、部長評価と段階的な評価を行い、均等な全体評価となるような仕組みとなっている。 また、出来るだけ残業をなくすよう業務内容見直しや声掛けを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内ケアマイスター制度を実施している。 正社員、パート問わず、全社員が学べる研修となっており、介護知識や介護技術の見直しをする場となっている。また、法人外研修への参加や、法人内必須研修実施等にてケアの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者連絡会にて他法人同事業形態の職員と交流させて頂いている。 その他の勉強会や研修にも出来る限り参加させて頂き、意見交換や取り組み内容の報告など行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと時間を掛け本人の想いに寄り添うことを心掛けている。昔や最近の出来事や想いを共有させて頂き、現在の想いや今後への要望などくみ取れるよう表情、言葉遣い、態度などに注意し実践している。本人の望む生活が出来るよう支援させて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家庭訪問や契約時にしっかりとお話をさせて頂き、不安に思っている事や困り事をしっかりと聞き、サービス導入を行うよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様からの聞き取りを重視して行っている。ホーム内のサービスだけでなく、インフォーマルなサービスなども含め、必要としている支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	衣類たたみやモップがけ、シーツ交換や食事の盛り付けや後片付け、また畑作業など、利用者様とスタッフが互いに協力し合って取り組んでいる。達成感や楽しみも分かち合う関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出・外泊は、いつでも制限なく実施して頂いている。面会の際には、本人を交え、様々な会話を通し、良好な関係作りを努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に本人様、家族様、CMよりこれまでの大切にしてきた人間関係や場所などを聞くようにしている。生家を訪れたり、なじみのスーパーへ出掛けたりしている。 また家族以外の方々の面会も多く、畑で採れた野菜等を差入れて下さる方もおられる。	入居時に利用者、家族にこれまでの生活歴や人間関係など聞き、馴染みの人や場所を把握。友人に会いに行ったり、行きつけの食堂、スーパーや娘の美容院に行ったり、自宅の畑の世話に付き添ったり、個々に合わせ外出している。また家族や近隣の方など面会者も多く、関係継続の支援を行っている。傾聴ボランティアの支援もあり、いろんな方が毎日訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や得手不得手など把握し、互いに協調出来るような関係作りを念頭において、対応させて頂いている。 自らの関わりの大切さをスタッフに伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られてからも、本人様への面会を行なっている。家族様からも喜んで頂いている。また、長期入院にて退所となられた方の家族より退院後の相談を頂くこともあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や習慣、得意な事や苦手な事等の把握に努め、本人や家族の望む暮らしの実現に努めている。意思の疎通が難しくなってきた方には、表情や行動などから想いをくみ取り、本人目線で考えることが出来るよう伝えている。	本人や家族の望む暮らしについて、生活歴や習慣、人間関係などくわしく聞いている。入所後しばらくすると好き、嫌いが自然に分かってくる。信頼関係を築けるよう、利用者の立場に立ち職員間で話し合い対応している。また意思疎通困難な方には表情や手を触り側にいるを心掛け、家族と相談しながら思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には必ず家庭訪問をさせて頂き、生活環境や近所との関係を把握させて頂いている。また、介護サービス関係者とも情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全体記録だけでなく、お一人お一人の状態確認が出来るよう個人記録を実施している。ドクターやナースの記録も確実にいき、少しの変化にも敏感に対応している。また記録をもとに細かな申し送りを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族様の意見や要望をお聞きし、かかりつけ医やナースからアドバイスを頂き、スタッフと話し合い、計画作成している。また、毎月のモニタリングをユニットミーティングで行い、目標達成へのケアの振り返りも行っている。	計画は本人の望むことを中心に立てられており、毎月のモニタリングで出来たこと、継続課題など見直され、1か月、3か月、半年毎に利用者それぞれの期間で作成されている。本人、家族の思いや主治医や看護師の意見等ミーティングで話し合い目標を立て、本人、家族の納得のもと達成を支援するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の記録にてケア実施内容や様子の変化、気づきなど記入している。記録をもとに、日中夜間の申し送りを徹底している。毎月のミーティング時には、改善点などについても話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する利用者様の状態や要望に対し、柔軟な考え方や対応を行うよう取り組んでいる。本人の為の支援を常に考え、実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや文化祭、他施設交流に出掛けたりしている。近所の方々との花壇作りや畑作りも行っている。近所に出向き、幼稚園児との交流も行ったりと、活気ある暮らしを楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にこれまでのかかりつけ医や事業所担当医の往診を本人様、ご家族様に選択して頂いている。今までのかかりつけ医へ受診の際は、出来る限りスタッフも同行し、現在の状況報告を行っている。途中での医師変更の申し出も自由であり、すぐに対応している。	入居時にこれまでのかかりつけ医の継続か事業所担当医の往診かを本人、家族に確認している。また受診時は家族とともに出来るだけ同行するようにしており、看護師やケアワーカーによる介護サマリーを作成持参し現状報告している。受診結果はリーダーに報告され、変更内容など皆に周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の細かな変化や気づきは、確実にナースに報告するよう周知している。 ナースとドクターとの連絡体制も整っており、必要な処置、受診等、速やかな対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、入院後の状態確認は細かく実施している。病院訪問にて担当ナースやソーシャルワーカーとの連携を密に取り、早期退院につながるよう努めている。また家族様との連携、相談対応も密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時は重度化した場合について出来る事について指針の説明を行ない、同意を得るようにしている。 看取りの経験はないが、担当医に指導を受け、今後の対応に活かせるよう取り組んでいる。	入居時に重度化した場合の方針について説明を行い同意を得るようにしている。看取りの実例はないが、施設への退院希望の方などソーシャルワーカーと連携し対応できるようになっている。状態変化について担当医の指導を受け、ミーティングで職員の意思統一を図り対応できるようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修を開催し、様々な対応訓練を行っている。消防訓練にて通報訓練、AEDの使い方など指導を受けている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時対応マニュアルや連絡網を作成している。 ナースやかかりつけ医とも随時連絡が取れ、相談や指示も得られるようになっている。	緊急事態対応マニュアルを整備し周知徹底を図り、定期的に見直しを行っている。毎月の研修で学んだことは、日々のミーティング時に職員間で確認し、職員全員が対応できるように努めている。協力医と訪問看護とは24時間いつでも連絡がとれる体制が確保され、損害賠償保険の加入もしている。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	担当医とは連絡連携を密に取っており、24時間いつでも支援が得られる体制を整えている。 同グループ施設との交流も行っており、状態に応じて様々な相談が出来る。	協力医療機関とは往診を含め、状態変化時の相談や連携は取れており、緊急時の支援体制は確保されている。また、同グループ内に福祉施設があり、日頃から情報交換を行っておりバックアップ体制も確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	各ユニット毎に1名の計2名を配置している。ナースとはいつでも利用者様の状態変化報告や相談が出来るようになっている。また、管理者やリーダーは常に対応出来るよう心構えを持っている。	夜間の勤務体制は各ユニットごとに1名の計2名となっている。緊急時には管理者、リーダーといつでも連絡が取れ、協力が得られる体制となっている。また、5分以内に駆けつけられる近隣の職員も4名おり、応援体制も確保されている。かかりつけ医や訪問看護との連絡も24時間対応可能となっている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、通報訓練、災害時対応研修を行ない、適切に対応出来るよう備えている。 運営推進会議で訓練時の協力をお願いしている。	避難訓練は消防署の訓練やデイサービスとの合同訓練を含め年3回行っている。夜間を想定し他訓練も行い、避難経路の確認、避難方法を職員全員が身につけられるように取り組んでいる。近隣の地域住民の参加はまだ得られていないが、訓練時の説明を行い、事業所への理解や協力が得られるようにしており、今後も働きかけていく意向である。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害時対応マニュアルや連絡網を作成している。避難先で困らないよう、緊急連絡先や医療情報等や薬などの持ち出し袋を用意している。	災害時対応マニュアルが作成され、職員全員に周知し定期的に見直しを行っている。備蓄品はチェックリストに基づいて、食品や飲料水、防寒具、介護用品、ラジオ、電灯等が整備され、定期的に点検を行っている。持ち出し袋には、利用者の医療情報が用意され緊急時いつでも持ち出せるようになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内接遇委員会に参加し、利用者様への言葉のかけ方や、対応方法を学び、持ち帰り、施設内研修を開催し、全スタッフへの浸透を行っている。また、自らの言動行動を振り返る自己評価を定期的に行なっており、ケアにつなげている。	職員は自分達の日頃の支援が、馴れ合いとなり、尊厳を無視した対応になっていないか、ケアを振り返り話し合っている。年1回研修を行い、業務連絡も利用者の近くでは言わない、個人名を出さないことを徹底している。また、援助が必要な時も、できるだけ利用者自身が、決定しやすい言葉がけを行うように努めている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いや希望を聞けるよう、常に傾聴を意識して係わらせて頂いている。何を行いたいか、何を食べたいか、何を着たいかなど、自己決定出来るような会話を行うようスタッフへ周知している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフは、業務中心ではなく、利用者様との関わりが中心である事を伝えている。関わりの中から、本人の希望をお聞きし、共に取り組み、本人の望む暮らしの実現を行えるよう努めている。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問美容理容に来て頂き、整髪を行っている。時に、スタッフによるメイクやネイルなども行っている。本人と一緒に買い物に出かけ、好みの衣類を選んだりと楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や盛り付け、配膳下膳、食器洗いや食器拭きなど、出来る事は一緒に行なっている。利用者様の希望に応じて、外食に出掛けたり、出前を取ったり、食事が楽しい時間になるよう取り組んでいる。畑でとれた野菜での料理も楽しみとなっている。	食材は配達してもらっているが、事業所の畑で採れた野菜や地域、家族からの差し入れも多く、利用者の希望に応じてその日の献立を変更している。食事の盛り付けや配膳、洗い物等、利用者の力量に応じて役割を担ってもらい職員と一緒に準備や片づけを行っている。弁当を持って紅葉やお花見に出かけたり、うどんやアイスクリームを食べに行く外食支援も行い、食事が楽しみとなるよう工夫している。また、利用者の状態に応じて、食事の形体も工夫し安全に食べてもらえるよう支援している。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の管理は、三測表にて細かく行っている。本人、ご家族様から、これまでの食習慣の聞き取りを実施し、栄養バランスを考えながらも、その方その方に応じた食事提供を行っている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施している。歯ブラシを使用出来る方には、使用して頂き、介助を必要とされる方には、口腔スポンジの使用や口腔ガーゼでのふき取り、義歯の方にはポリドント等を使用している。		
mei	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自発的訴えのない方でも、排泄パターンの把握に努め、定期的なトイレでの排泄支援を行っている。利用者様の状態に応じて、出来る限り紙オムツではなく紙パンツを使用させて頂き、トイレでの排泄を目標とし、本人の残存機能を引き出すよう努めている。	トイレでの排泄支援に努め、時間帯に応じてパットの使用を工夫し自立にむけた支援を行っている。入院し排泄の介助が必要となっても、排泄のパターンを把握し、布の下着使用となった方を含め7名の方が維持できている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や軽体操、散歩や運動レクリエーションを行ったりと、身体を動かす機会を多く取り入れている。また、ヨーグルトやヤクルト、乳製品などを摂取して頂き、便秘予防対策に取り組んでいる。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望や状態に応じて対応している。入浴を拒む方には気の合う利用者様との入浴や特別湯などで気持ちよく入浴して頂けるよう努めている。時にスタッフと共に温泉に入りに行く事もある。	入浴はいつでも入れるようになっている。入浴を拒む方には気の合う利用者や職員の声掛けで気持ちよく入浴してもらえるように対応している。湯は毎日、バスクリンを使用し色や香りを楽しめるようにし、柚子湯や菖蒲湯等、季節を感じてもらえるよう工夫している。家族と温泉に出かけたり、スーパー銭湯に職員と一緒に出かける支援も行っている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休息など今までの生活習慣を大きく変化させる事のないよう、利用者様判断で行って頂いている。日中は色々な活動を楽しんで頂き、夜はゆっくり休んで頂けるよう取り組んでいる。また、夜は少し電気の明るさを落とさせて頂き、昼夜の変化を感じられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターより薬の目的、薬剤師より用法や用量、副作用などお聞きし、スタッフ間にて情報共有、申し送りを行っている。また、ナースより全体的な再説明の実施と申し送りノートへの記載も行い、スタッフの周知に努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日行っていた畑仕事や家事作業や草むしり等の継続にて、役割を果たす事の喜びにつながるよう支援している。毎晩の晩酌が欠かせなかった利用者様には、現在も継続して楽しんで頂く等、一人一人の楽しみの支援をさせて頂いている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は散歩に出掛けたり、外食や買い物、ピクニックに出かけたりしている。家族との情報共有にて、役割分担など行いながら楽しんで頂けるよう支援している。	天候の良い日は歩行が困難な方でも車いすを押し、散歩や日光浴等、日常的に出かけるようにしている。化粧品や服の買い物、歌謡ショーや美術館、足浴等、利用者の希望に応じて対応している。また、地域の行事には積極的に参加し、楽しんでもらえるように支援している。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外食の際には、本人様に財布を持って頂き、一緒にレジに並ぶようにしている。出来る限り本人の能力を引き出せるような声掛けを行い、必要最小限の援助を行うようにしている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時にご家族様へ本人様の希望時に電話を掛けさせて頂けるよう協力依頼を行っている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や換気、温度調整や湿度管理を行っている。またフロアには季節を感じて頂けるよう飾り付けなど実施している。フロア内の配置変えなども行い、利用者様が出来る限り快適な生活を送ることが出来るよう心掛けている。季節に応じた入浴を行なっている。	フロアは、食卓テーブルやソファの配置を工夫し、利用者が自由にくつろげるようにし、温度や湿度調整部屋の照明の強さに気をつけ、居心地良く過ごせるように配慮している。居室までの廊下には利用者の作品が飾られ、利用者との楽しい話題に繋がっている。また、家族から差し入れられる花も多く、利用者に生けてもらい季節感を感じとってもらえるようにしている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やフロアで過ごされる時間はお一人お一人自由に選んで過ごして頂いている。気の合う利用者様同士で居室で談話されたり、お茶をされたりという場面も多く見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけご自宅で使っていた馴染みのある物を持って来てもらうようお願いしている。 長年使っていた椅子や夜食用の冷蔵庫、亡夫の仏壇など、利用者様の大切な物など配置し、居心地よく過ごせるようにしている。	自宅で使っていた馴染みの物を持ってきてもらうように入所時に家族をお願いしている。家具の配置は本人の移動動作が容易となるように家族の希望も聞きながら、職員間で話し合い設置している。居室には家族の写真やテレビ、冷蔵庫、テーブル、椅子、仏壇等、利用者が大事にしている思い出と一緒に居心地よく過ごせるように配慮している。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前プレートを設置している。名前の確認が難しい方には、お花や飾り物で区別出来るようにしている。		